

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 57

学校名・団体名	岡崎市立小豆坂小学校
HPアドレス	<a href="http://cms.oklab.ed.jp/el/azuki/">http://cms.oklab.ed.jp/el/azuki/</a>
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域と共に未来を創る小豆坂の子の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>地域への愛着心を持ち、自己実現や問題解決のために、協調的に活動を進展させながら、主体的に他者と学び考えることで思考を深め、よりよい生き方を考え未来を創っていく実践力を児童に育むために、地域との関わりを重視した単元による探究的な学習過程を通して、思考力を中軸とした5つの力を育てる思考スキル・ツールを活かした小豆坂カリキュラムデザイン（地域を活かした単元のデザイン、思考力アップのデザイン、思考の深化を促す授業のデザイン）の構築を目指し、本研究を継続している。</p>	

## 研究の仮説と研究構想図

### 仮説1

児童が地域（人・社会・自然）との関わりの中で、自己実現や課題解決を図ることができる**探究的な学習の場をデザイン**（計画・設計）することで、児童の地域への愛着心は育まれるとともに、自己の生活を見つめ直し、よりよく生きていこうとするであろう。

### 仮説2

探究的な学習の場において、思考スキル・思考ツールを活用し、課題解決や情報の整理・分析が効果的に行われるように**デザイン**（計画・設計）することで、児童は主体的に学習に取り組むとともに、思考を深めながら学習を進展させるであろう。



## 研究の実際

### ●地域を活かした単元のデザイン（教材開発部会）

（手立て1）地域素材や人材の探求と、それらを活用した単元の構想

児童の学習につながる地域素材や人材を探求し、総合的な学習の時間を中心に、本年度は、**3年生「目指せ、小豆坂チョウランド」**、**4年生「伝えよう守っていこう小豆坂の宝」**、**5年生「小豆坂発 地産地消サポーター」**、**6年生「ふるさと小豆坂ハートフルタウンプロジェクト」**の単元を構想することができた。

（手立て2）育てたい資質・能力と単元を通して目指す児童の姿の明確化

探究的な学習過程を通して育てたい資質・能力として「**始動する力、受けとめる力、伝える力、自己を見つめる力、思考力**」の5つを設定し、発達段階を考慮し、観点毎に低・中・高での到達目標を定めた。それらを基準にして、各単元を通して育てたい児童の姿を明確にすることができた。また、それを単元における評価基準とした。\*下表は始動する力の協調性について、発達段階を考慮して設定した到達目標

始動する力	協調性	低学年	中学年	高学年
		○他者の意見や考え、思いを受け入れたり、共感したりすることができる。	○他者の意見や考えを理解したり、思いを受けとめたりして、建設的に他者に働きかけることができる。	○他者に対して、どのように貢献すればよいかを認識しながら、チーム内の自分の役割を理解し、他者と共に活動を進めていくことができる。

（手立て3）体験的な活動や表現活動の吟味と単元構成の工夫

単元を通して育てたい児童の姿に迫るために、どのような体験活動が必要かを吟味し、その体験活動を基にした表現活動の場を設定し、体験活動→表現活動→体験活動→表現活動となるように単元の構成を工夫することで、探究的な学習過程のある単元を構想することができた。

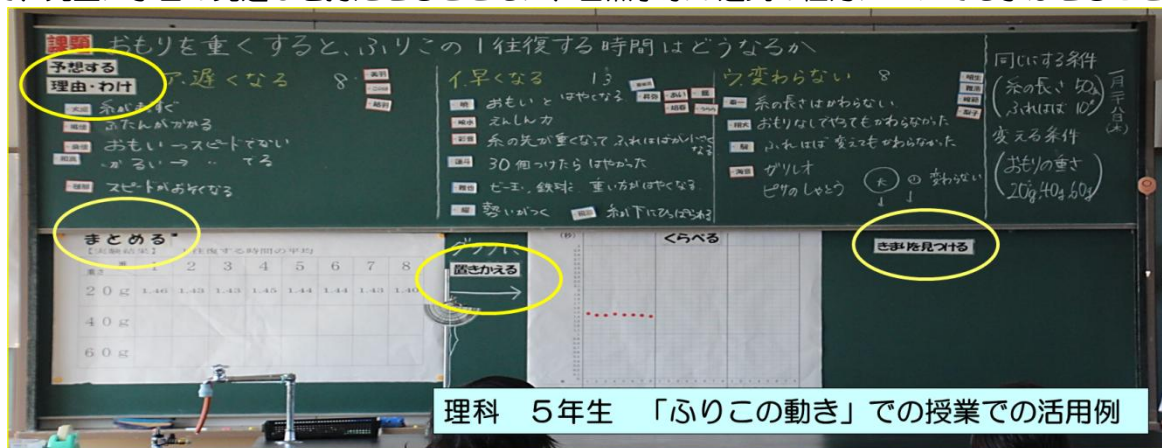
### ●思考力アップのデザイン（思考ツール部会）

（手立て4）思考スキルカードの作成と問いかけの言葉の活用による思考スキルの意識化と習得

本校では、関西大学の黒上教授の提唱されている思考スキルを活用し、**20の思考スキル**（比較する・分類する・変化をとらえる・広げてみる・理由付ける・評価する・多面的にみる・関係付ける・順序立てる・焦点化する・要約する・推論する・変換する・照合する・見通す・具体化する・関連付ける・構造化する・抽象化する・応用する）を児童が意識し、習得することを図るために思考スキルカードを作成した。また、その思考を促すための問いかけの言葉を考え、各教科領域において使用した。\*下の表は「比較する・分類する」の例

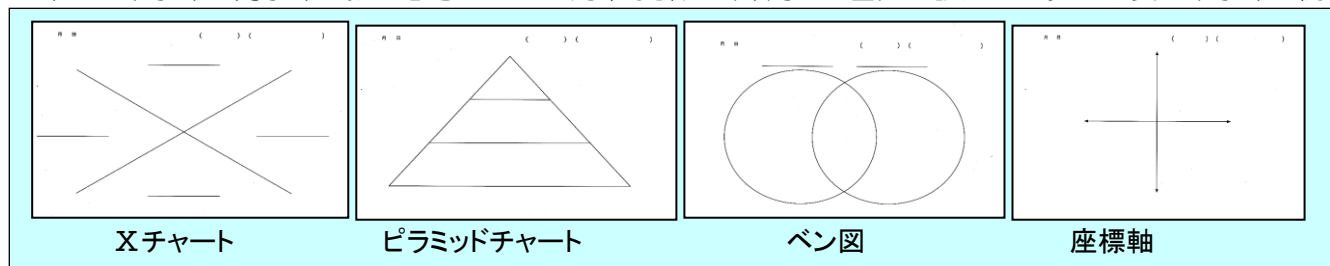
思考スキル	思考スキルカード	問いかけの言葉	思考ツール
比較する	くらべる 同じを見つける ちがいをみつける	・～と～を比べると。 ・同じところと違うところは	ベン図・マトリックス（表） ・フローチャート
分類する	分け 仲間に分ける	・おなじ仲間に分けると（まとめる） ・どの仲間になるかな	kJ法・X、Y、Wチャート・ベン図 座標軸

写真は、振り子のおもりを重くした時の1往復時間を調べる授業での板書。思考スキルカードを提示することで、児童に学習の見通しを持たせるとともに、自然事象の追究の仕方についても学ばせることができた。



(手立て5)「ひらめきタイム」(朝の業前活動20分間、木・金曜日に行う)での、発達段階に応じた思考ツールの名前や使い方の習得

本校では、思考スキルに即した思考を促すために、下図に示したような関西大学の黒上教授の考案された思考ツールを活用した。思考ツールはいくつかの種類があり、それらの名前や使い方を習得するために、「ひらめきタイム」を設定した。また、ひらめきタイムを進めるために、児童の発達段階を考慮して、1年生・2年生・中学年・高学年で扱う思考ツールと簡単な課題(年間35回)を設定した。\*下表は中学年の例



No.	月	思考スキルカード	思考ツール	課題(テーマ)
1	4	広げる・選ぶ	ウェビング・ピラミッド	新学年でがんばりたいこと
2		理由・わけ	クラゲ・Fポーン	新学年の生活の目標を立てよう。
3	5	広げる・見通す	ウェビング・KWL	小豆坂小学区について知っていることを書き出そう。

「ひらめきタイム」によって、児童は思考ツールの名前や使い方を習得し、各教科領域において戸惑うことなく思考ツールを有効に使いながら学習を進めることができた。

### ●思考の深化を促す授業のデザイン(授業研究部会)

(手立て6) 学習課題・発問・思考スキルの吟味と思考ツールの効果的な利用、授業形態や板書の工夫

探究的に活動が進展していく学習課題を設定し、課題解決のためにどのような思考を児童に促していくかを吟味し、授業では発問の設定や思考ツールの選択・活用を行った。また、児童の思考の深まりや振り返りを促すために板書に思考ツールを活用した。基本的な授業形態については下の図のように個⇒グループ交流⇒全体交流⇒振り返りとすることで、課題解決のための話し合いが主体的、対話的に進められるようになった。

